

コンペまたはプロポーザル方式による公共建築における要綱、技術提案書、実空間、利用者意識の関係に関する研究
その2：利用者意識から見た設計者選定方式の検証

コンペ
技術提案書

プロポーザル
利用者意識

要綱
交流系施設

正会員 ○築地 颯 *1
同 脇坂 圭一 *2
同 恒川 和久 *3
同 西山 雄大 *4
同 斉藤 孝治 *5

1. 研究概要 その1に続き、その2では、利用実態として利用者に着目し、4事例について利用者意識を調査することで、要綱、技術提案書、実空間、利用者意識の関係を示し、コンペまたはプロポーザル方式の成果について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法 研究の方法は以下の手順で進めた。1) その1で分類した項目について利用者にアンケートを行った。中項目、大項目を併せた14項目のアンケートを作成し、利用者意識を明らかにした。2) 要綱と利用者意識の関係性を把握した(分析2)。3) その1で示した要綱、技術提案書、実空間、利用者意識について関係性を明らかにした(分析3)。

3. 要綱と利用者意識の関係性

3-1. 調査概要 各事例の利用者にアンケートを行い、11項目に対する意識について調査を行った。11項目について「そう思う・ややそう思う・どちらでもない・あまりそう思わない・思わない」の5段階で質問をし、その理由について記述してもらった(図1)。アンケートの期間は平日、休日1日ずつとし、一部事例では1週間追加調査を行った(表1)。

アンケート内容	
1. 利用者属性について	(1) 性別 (2) 年齢 (3) 職業 (4) 利用人数
	(5) 利用頻度 (6) 居住地 (7) サークルの有無 (8) 利用目的
2. 利用者意識について	(1) 愛着や誇りを感じるか (1-a)
	(2) 気軽に施設を利用できるか (1-b)
	(3) 学習の拠点となっているか (2-a)
	(4) まちづくりの拠点となっているか (2-b)
	(5) 子育ての拠点となっているか (2-c)
	(6) 人材育成の拠点となっているか (2-d)
	(7) 交流しやすい場所となっているか (3)
	(8) ユニバーサルデザインに配慮しているか (4)
	(9) 地域特性に馴染んでいるか (5)
	(10) 環境性能は十分か (6)
	(11) 機能性・合理性の面で利用しやすいか (7)
	(12) 安心・安全に利用できるか (9)
	(13) 別にシンボル性や愛着を感じるか (10)
	(14) 敷地と一体的に利用できているか (11)

表 1. アンケート調査概要

	A. 逢妻	B. 多賀	C. くるる	D. 土生
平日調査日	2024/12/12 (木)	2024/12/20 (金)	2024/12/6 (金)	2024/12/13 (金)
休日調査日	2024/12/15 (日)	2024/12/21 (土)	2024/12/7 (土)	2024/12/14 (土)
追加アンケート	2024/12/16 (月) ~ 12/20	2024/12/22 (日) ~ 12/27	なし	2024/12/16 (月) ~ 12/19
回収数	96	91	90	101
備考	21日(土)は翌日のコンサートの公開リハーサルが行われていた。 7日(土)はイルミネーションの点灯式とコンサートが行われていた。			

図 1 アンケート内容

図1. アンケート内容

3-2. 5段階のアンケート結果とその理由 B【多賀】を例に挙げ、調査結果を述べる。肯定的意見が過半を下回っている項目は「2-d. 人材育成」のみとなり、全体的に利用者はよい意識を感じていることが分かった(図2)。また、肯定的意見が80パーセントを超えている項目として「1-b. 気軽さ」「5. 地域特性」が挙げられた。記述の理由について、肯定的意見では「1. 愛着・誇り・気軽さ」「5. 地域特性」共通して木材による暖かみや匂いに関する記述が多く見られた。他に、「1. 愛着・誇り・気軽さ」では「エントランスホールやガラスによる広々とした空間」についての記述や、「他者がいる」ことについての記述、「風景を感じることが出来ること」についての記述が多く見られた(図3)。否定的意見では、「各部屋が分かりにくい」といった記述や、「平面が複雑で迷子になる」といった記述、「照明が暗い」といった意見が少数見られたが、記述数として10個を越える項目はなかった。

3-3. 利用者意識の点数化と各事例の比較 各事例について「そう思う：2点、ややそう思う：1点、どちらでもない：0点、

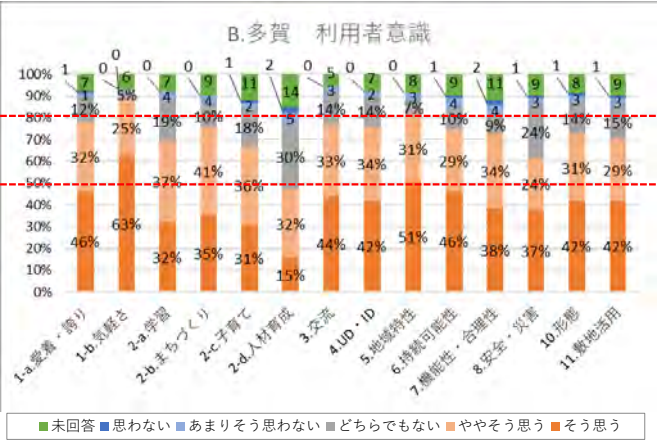


図2. 多賀における5段階アンケート結果

B. 多賀町中央公民館		諸室表	
		①憩いの広場	②大会議室
		③和室	④集いの広場
		⑤中会議室	⑥トイレ
		⑦小会議室	⑧多目的室
		⑨事務室	⑩風除室
		⑪エントランスホール	⑫調理室
		⑬畳小上がり	⑭配膳室
		⑮トイレ	⑯ギャラリー
		⑰託児・授乳室	⑱工作室
		⑲児童室	⑳図書スペース
		㉑机スペース	㉒子供広場
		㉓ホワイエ	㉔トイレ
		㉕ホール1	㉖ホール2
		㉗駐車場	
項目		○：肯定的意見	
分類		記述個数	
1. 愛着・誇り・気軽さ	愛着・誇り	4. 机ある×2, 木材使用 5. 季節感 7. 使いやすい, 静か 10. 雰囲気よい 11. 広い, カーペットある, 机ある, 人少ない, 人暖かい, 立地よい 12. 明るい 13. 暖かい 14. 家具ある 15. 木の匂い×2, きれいな(全)木の暖かみ	40
	気軽さ	4. フリースペース 7. 広い×6, ガラス張り, 木材使用 10. フリースペース×3, 入りやすい, 人が少ない, 道具安全 11. 暖かい, 暖かい 12. コンサートよくある (全)他にも入る	
5. 地域特性	景観・資源	10. 自然観察できる 11. 木材使用 12. 家族で来れる (全)木の暖かみ×3, 木材使用×6, バリアフリー	13

図3. 多賀におけるアンケート記述の理由

あまりそう思わない：-1点、思わない：-2点」として尺度化し、利用者意識を点数で算出した(表2)。11項目の平均値は79.0点となりプラス評価だった。4事例共通では「1. 愛着・誇り・気軽さ」が平均125.5点、「3. 交流」が平均95.8点、「6. 持続可能性」が平均79.5点と、肯定的意見が高い結果となった。また、B【多賀】やD【土生】では全項目で高い点数となり、利用者意識としては評価が高かった。一方で、A【逢妻】やC【くるる】では「5. 地域特性」や「9. 安全・災害」で特に低い点数となった。

4. 要綱、技術提案書、実空間、利用者意識の関係性 横軸を「その1」で算出した設計kw達成率、縦軸を4-3で算出した利用者意識の点数と置き、関係性を見た(図4)。4事例共通として、「3. 交流」について設計kw達成率が高く、肯定的意見も高くなっていた。また、設計kwが0~200%と少ない事例項目について、否定的な意見が増加した(「9. 安全・災害」)。「1. 愛着・誇り・気軽さ」では、達成率は低かったものの、利用者意識として肯定的意見が高かった。各項目について4事例平均すると、「3. 交流」や「6. 持続可能性」について割合が高く点

数も高い項目が見えた（図5）。

特徴的な項目として「1. 愛着・誇り・気軽さ」について関係図を示す（図6）。「1. 愛着・誇り・気軽さ」では、4事例共通として、他者の活動が見えて共有されることで自分も交流しやすくなるという意見が見られた。A【逢妻】の全面ガラスによる活動の共有や、子供たちの隙間を居場所に使っていた様子、B【多賀】、C【くるる】の開放的なエントランスホール、D【土生】のエントランスや屋外にまで開かれた大ホールにおいて、計画された場所において肯定的意見が見られた。一方A【逢妻】やC【くるる】では音、温熱環境、地域性について否定的意見も見られた。

5. 総括 本研究では、まず、その1で11項目を要綱から導いた。この11項目では特に「3. 交流」において達成率と利用者意識において肯定的な関係性がみられた。一方、「9. 安全・災害」について否定的な関係性が見られた。また、「1. 愛着・誇り・気軽さ」では利用者意識が最も高い項目となり、達成率以上に、利用者にとって愛される建築となっており、コンペまたはプロポーザル建築の成果の一端を示すことが出来た。

表2. 意見数の集計結果（単位：pt）

	A. 逢妻			B. 多賀			C. くるる			D. 土生			総合平均
	○	△	合計	○	△	合計	○	△	合計	○	△	合計	
1. 愛着・誇り・気軽さ	107	-8	99	138	-2	136	120	-3	117	151	-1	150	125.5
2. 拠点	71	-16	55	93.5	-6	87.5	76	-12	64	99	-7	92	74.6
3. 交流	82	-9	73	121	-3	118	93	-4	89	111	-8	103	95.8
4. UD・ID	66	-30	36	122	-2	120	78	-17	61	104	-10	94	77.8
5. 地域特性	55	-37	18	133	-3	130	58	-30	28	100	-7	93	67.3
6. 持続可能性	78	-32	46	121	-6	115	61	-33	28	133	-4	129	79.5
7. 機能性・合理性	59	-38	21	110	-8	102	69	-26	43	95	-8	87	63.3
8. 耐用性・コスト													
9. 安全・災害	53	-40	13	98	-5	93	58	-36	22	111	-7	104	58.0
10. 形態	83	-18	65	115	-5	110	64	-33	31	98	-14	84	72.5
11. 敷地活用	63	-22	41	113	-5	108	73	-26	47	112	-6	106	75.5
事例別平均			47			112			53			104	79.0

計算方法 そう思う：2pt ややそう思う：1pt どちらでもない・未回答0pt
そう思わない：-2pt あまりそう思わない：-1pt
回答数は割合で4事例統一し、項目ごと計算を行っている（満点：1項目200点）

項目	要綱 kw	設計 kw	技術提案書 平面イメージ		設計図書		実空間	利用者意識
			全体	部分	全体	部分		
A. 逢妻	1. 愛着・誇り・気軽さ	愛着・誇り A-1	a-13	a-13	a-13	a-13		○：④本ある×4、静か×3、明るい、近い、③職員気配、カフェ、⑥入口広い ③外観、照明きれい、⑧子供利用、利用者と話しやすい、④きれい、景色よい、開放感×4、音響よい、活動量が、⑩景色よい、道具多い、④音響よい、活動場所 ⑧子供利用、⑦キッチンよい、音響よい、活動経験、開放感、⑧駐車場広い ⑩日当たりよい、⑩全、活動量が、立地よい、立地よい、外形、開放感、規模よい △：②使いにくい、④利用者が少ない、⑩日光眩しい、音が漏れる×⑩⑩形状悪い× ②、埃ある、⑩音が漏れる（全）遊び場ない、外形×2、寒い×2、使いにくい
		気軽さ a-3, 4, 5, 22	a-5, 4, 3, 22	a-5, 4, 3, 22	a-5, 4, 3, 22	a-5, 4, 3, 22		
B. 多賀	1. 愛着・誇り・気軽さ	愛着・誇り B-1	b-4, 8, 31	b-4	b-117	b-8, 31, 118		○：④机ある×2、フリースペース、木材使用、⑤季節感ある、⑦使いやすい、静か、よい広さ、⑧使え、⑩雰囲気よい、広い×6、ガラス張り、木材使用、⑩広い、カーペットある、机ある、人少ない、人種が、立地よい、フリースペース×3、入りやすい、人が少ない、道具安全、⑩明るい、⑩広い、隠れ家、⑩道具ある、⑩木の匂い×2、きれい、⑩コンサートよくある、⑩全、木の暖かみ、他にも人いる
		気軽さ B-2	b-1, 5, 10, 115, 117, 118	b-1, 10	b-115	b-1, 10		
C. くるる	1. 愛着・誇り・気軽さ	愛着・誇り C-8	c-3, 5, 62, 64	c-3, 5	c-38	c-3, 5		○：②駐車場広い、③イルミネーションある、④カフェある、⑤カフェある、⑥ここにしかない商品、気軽に利用、カフェ、フリースペース、美味いお茶、⑦きれい、⑧活動量、立地、開放感、フリースペース、⑩誰でも使える×2、⑩他にはない、⑩質問できる、⑩要にある、⑩使いやすい×2、⑩裏にも出入口（全）立地が駅前、市民の要望、計画時参加 △：③狭い、ガラス張りでの人に見られているよう（全）料金がかかる×2、ガラス壁危険、奥に引っ込んで、せつなくてから
		気軽さ C-1, 5	c-37, 38, 67	c-37, 38, 67	c-62	c-67		
D. 土生	1. 愛着・誇り・気軽さ	愛着・誇り D-1	d-36	d-36	d-5	d-36		○：②出入りしやすい、③広い、きれい、よく使う、⑥職員対応よい、⑧よく使う×2、便利、大人数で使える、道具揃って、使い慣れている、⑨開放的、よく使う、適当な広さ、⑩卓球台ある、多様な活動、きれいで便利、開放的、②広い、出入りしやすい、使い慣れている、使いやすい、⑩活動量、⑤駐車場広く明るい（全）広く使った、様々な活動×2、きれい、親しみやすい、建設時から見てきた、利用者多い △：（全）もう少し広さ欲しい
		気軽さ d-5	d-5	d-5	d-5	d-5		

図6. 各事例における「1. 愛着・誇り・気軽さ」の要綱、技術提案書、実空間、利用者意識の関係性

*1 スタートアップマネジメント株式会社 修士（理工学）
*2 静岡理工科大学 教授・博士（工学）
*3 名古屋大学大学院工学研究科 教授・博士（工学）
*4 武庫川女子大学生活環境学部 講師・博士（工学）
*5 名古屋大学大学院環境学研究科 助教・博士（工学）
Starts Asset Management Inc., M. Eng.
Prof., Shizuoka Institute of Science and Technology, Dr. Eng.
Prof., Graduate School of Engineering, Nagoya University Dr. Eng.
Lecturer, School of Human Environmental Sciences, Mookogawa Women's Univ., Dr. Eng.
Assistant Professor, Graduate School of Environmental, Nagoya University Dr. Eng.